

サロベツ再生通信

2018.4発行 第26号

上サロベツ自然再生協議会運営事務局

NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
豊富町
環境省北海道地方環境事務所
北海道開発局稚内開発建設部
北海道宗谷総合振興局稚内建設管理部
林野庁北海道森林管理局

下エベコロベツ川～ペンケ沼の現況調査を実施

ペンケ沼は近年、上流からの土砂の堆積、水温上昇、水質悪化などの環境悪化が懸念されていることから、最新の状況を把握するため、NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク、環境省北海道地方環境事務所、北海道稚内建設管理部は下エベコロベツ川下流からペンケ沼流入部までの3km区間において、現況調査を行いました。その結果、河口部の土砂堆積やゴミの集積が確認されました。

◇ 現地調査 (H29.8.29)



【水深の計測状況】



【現況調査及び清掃活動の様子】



平成29年度上サロベツ自然再生協議会第18回再生普及部会を開催

平成30年3月6日に豊富町定住支援センター（ふらっと★きた）にて、第18回再生普及部会が開催されました。会議ではエコモ・サポーターの田中代表より平成29年度の活動報告、事務局より第3期上サロベツ自然再生普及行動計画の策定、および平成30年度の普及活動の進め方についての議論の結果を報告しました。それに対し、行動計画の策定については、官公庁が主体であった第1期・第2期に対し、第3期は地元が中心となっていくとした方針自体は承認するが、担い手の確保や具体的な活動の進め方を今後事務局を中心に議論し、次回以降の協議会で結果を報告することとしました。今後の普及活動の進め方については、多くの方に参加して頂く方策について意見を頂きました。その後、部会はこれら3つの議案について承認して閉会しました。また、会場の定住支援センターでは、普及部会に開催に合わせて、「サロベツ・エコモ・プロジェクト活動報告展」を開催しました。



【エコモ・サポーター
田中代表による報告】



【サロベツ・エコモ・プロ
ジェクト活動報告展】

平成29年度 農業農村工学会賞『上野賞』を受賞

豊富町、サロベツ農事連絡会議、北海道開発局稚内開発建設部の三者は、サロベツ湿原再生を目指す農地と湿原の共生に向け、平成18年度より『緩衝帯』の設置に取り組んできましたが、この取組が「農業農村工学に関する事業の新たな分野の発展に大きく寄与」するものと認められ、今年度の農業農村工学会賞『上野賞』を共同受賞しました。

サロベツ湿原では、乾燥化による湿原環境への影響が懸念される一方、湿原に隣接する農地では、泥炭地ゆへの地盤沈下による排水機能の低下や降雨後の湛水被害・過湿障害が問題となっておりました。このため、稚内開発建設部が実施する国営総合農地防災事業「サロベツ地区」では、湿原の乾燥化による湿原環境への影響を緩和するため、湿原に隣接する農地内に『緩衝帯』を設け、農地側としての排水機能の確保と湿原の保全に必要な地下水位の維持の両立を目指した取組を行ってきました。この『緩衝帯』の設置は、検討段階から設計・施工・効果の検証まで官民学が連携して総合的に取り組んできたことが、今後、環境保全と農業振興を両立させる事業の進め方のモデルになり得るものとして高く評価されたところです。

なお、道内からの『上野賞』の受賞は、8年ぶり6回目となります。

【上野賞とは】

上野賞は、農業土木学の開祖である(故)上野英三郎先生の業績を記念し、公益社団法人農業農村工学会が授与する学会賞の一つとして昭和45年に創設され「農業農村工学に関する事業の新しい分野の発展に寄与すると認められる業績を上げた組織・団体に授与」される賞です。

なお、(故)上野英三郎先生は、渋谷駅前に銅像が建立されている「忠犬ハチ公」の飼い主としても有名な方です。



(公社)農業農村工学会 久保会長より賞状の授与
【サロベツ農事連絡会議 議長 山本寿昭氏】



上野賞受賞挨拶
【豊富町 副町長 川原清己氏】



上野賞受賞記念撮影（左から）
豊富町【川原 副町長】
サロベツ農事連絡会議【山本 議長】
上サロベツ自然再生協議会【梅田 会長】
北海道開発局稚内開発建設部【矢部 稚内農業事務所長】



上野賞受賞の賞状と記念品の箱